


# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	健康保険 八代総合病院	階数	地上14階 地下1階		
建設地	熊本県八代市	構造	S造		
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	2,300 人		
気候区分	地域区分V	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2013年1月 予定	評価の実施日	2010年12月1日		
敷地面積	6,545 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	4,724 m <sup>2</sup>	確認日	2010年12月21日		
延床面積	33,625 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

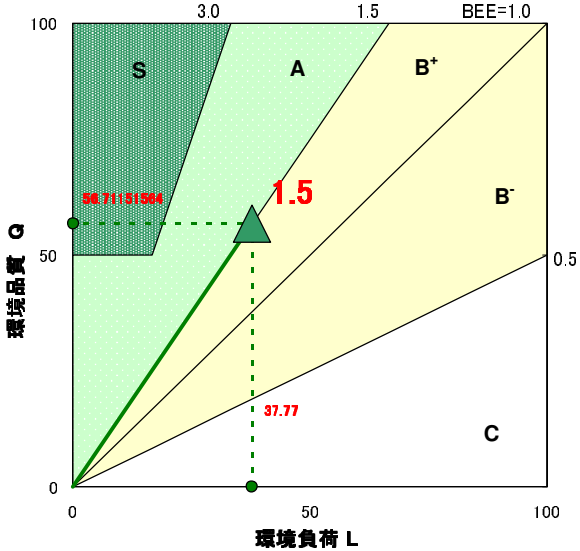


### BEE = 1.5

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ CASBEE 評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	☆☆☆☆☆	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	☆☆☆☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B <sup>+</sup>	☆☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B <sup>-</sup>	☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	☆	劣る	0.5未満	—



## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



### 評価点

# 86

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

90

77.5

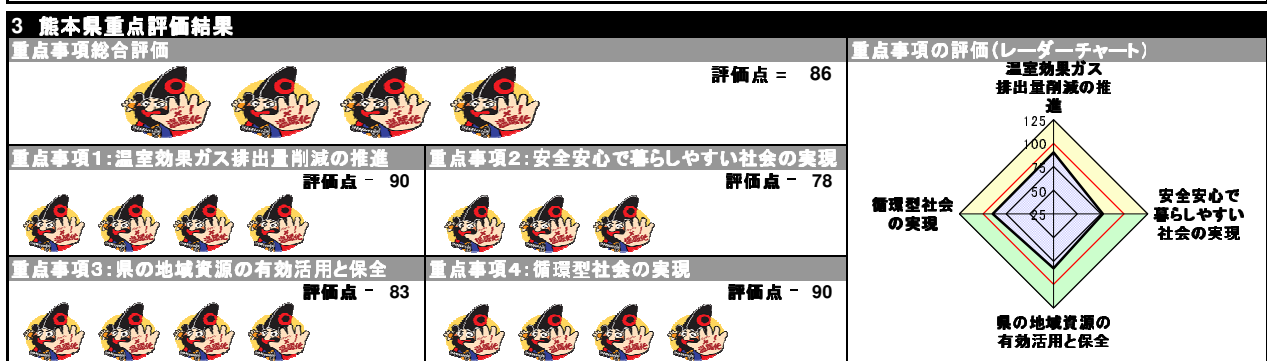
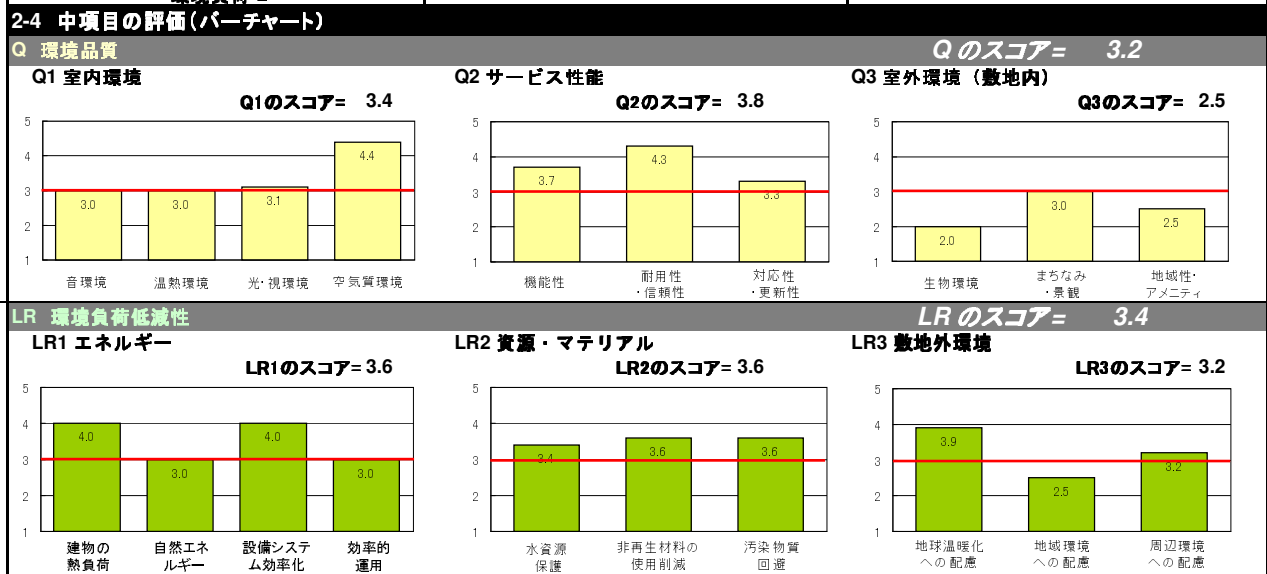
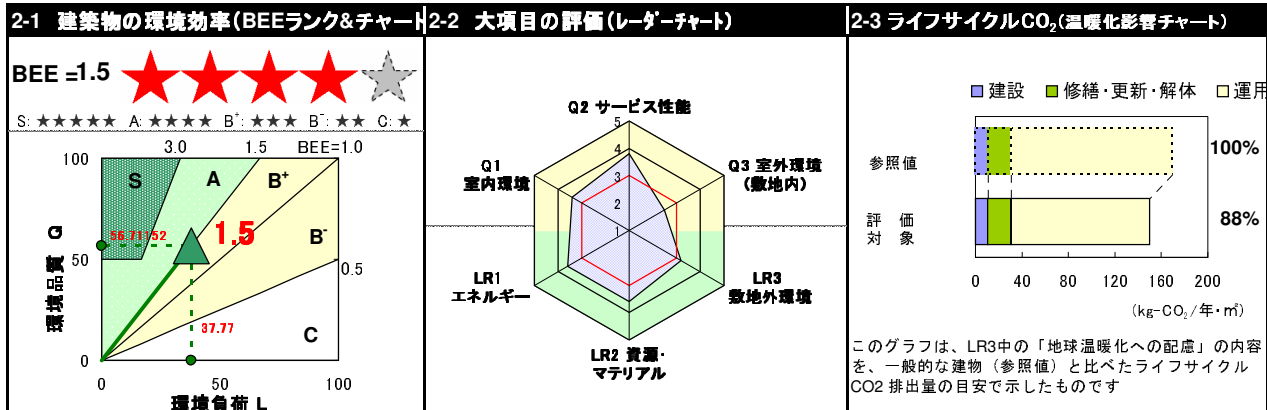
82.5

89.9

# CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築 (簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-Ncb\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	健康保険 八代総合病院	階数	地上14階 地下1階
建設地	熊本県八代市	構造	S造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	2,300 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年1月 予定	評価の実施日	2010年12月1日
敷地面積	6,545 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	4,724 m <sup>2</sup>	確認日	2010年12月21日
延床面積	33,625 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照された

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

健康保険八代総合病院は、昭和23年の開院より今日まで、八代市のみならず熊本県南の市民の健康を守り、最も歴史ある病院として発展してきました。今般、医療の変革と施設の老朽化により、市民の期待に答えるべく新病院の建設計画を行ってきました。高い耐震性を備え、より良い医療を提供する病院、さらに、八代市の新たなまちづくりの拠点となる建築を目標に新病院を建設します。

### Q1 室内環境

- ・各室ごとに風量調節を行える個別空調方式とし、室使用者による空調機器音の低減を可能にします。
- ・個別温度制御により快適な温熱環境を確保します。
- ・ほぼ全館にわたり外気処理空調機による第1種機械換気を採用します。廊下にも外気を供給し、エアバランスの配慮を行い建物内でのウィルス等の拡散を防止します。

### Q2 サービス性能

- ・設備機器等の更新を想定し、低層部では十分な階高を確保します。
- ・北側隣地への拡張も視野に入れ、渡り廊下等で将来接続可能な計画とします。
- ・病棟においては、療養環境の変化に対応できるよう4床病室すべてが個室化できるよう計画されています。

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・外装材にはアースカラーを基調とした天然素材を使用し、景観と調和した外観計画とします。
- ・建物外周に高木の並木を植樹することで隣地の市役所の緑地と一体となった「地域のクールスポットの形成」を目指します。
- ・街かど広場や玄関前ピロティを開放し、地域に根ざした病院づくりを掲げる一方で、療養ゾーンと共用ゾーンを明確に区画することで、高いセキュリティを確保し、患者さんが安心して療養できる環境を目指します。

### LR1 エネルギー

- ・高効率照明を採用します。
- ・高効率熱源機器や冷水の小水量化（ $\Delta t=8^{\circ}\text{C}$ ）により空調エネルギーの削減を図ります。
- ・中央熱源容量制御＋ゾーン空調方式（インバーター風量制御）とパッケージエアコンによる個別分散空調方式の複合システムを構築し、中央監視盤で運転管理することにより、最適で無駄のない空調システムとします。

### LR2 資源・マテリアル

- ・汚染物質含有材料の使用を極力抑え、患者さんやスタッフに安心して利用していただける計画としました。
- ・全館にわたって節水型衛生器具を採用します。
- ・ヒートポンプ熱源機器にはオゾン層破壊係数0の冷媒を使用します。

### LR3 敷地外環境

- ・建物の外周には中高木を植栽し、木陰に包まれる並木道を敷地内に設けます。
- ・地域環境への配慮(大気汚染・温熱環境・排水廃棄物交通負荷の抑制)。
- ・粗面仕上げの外装材と彫りの深い窓面によって、太陽光の反射(グレア)による影響を低減します。

### その他

- ・各部門のゾーニングを矩形にまとめることで、折れ曲がりの少ない廊下を実現し、内部動線の明快な建築計画としました。
- ・患者とスタッフの動線が交錯しない階構成、EV配置計画とし、機能的かつ効率的な動線計画とします。

**CASBEE-新築(簡易版)2008年版**  
健康保険 八代総合病院

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2008年  
■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.40			<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.3</b>	0.15	<b>2.6</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.1.1 1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.8</b>	0.40	<b>3.2</b>	0.40	
1.2.1 1 開口部遮音性能	T-2以上を確保	5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
2.1.1 1 室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 温度変動・連続制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間・空間に別れた配管		-	-	-	-	
8 温度・湿度		-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	0.20	
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.1</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>1.8</b>	0.30	<b>4.2</b>	0.30	
3.1.1 1 昼光率		1.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>4.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30	
3.2.1 1 グレア対策		-	-	-	-	
2 昼光制御	庇、ブラインドの設置	4.0	1.00	4.0	1.00	
<b>3.3 照度</b>		<b>2.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.3.1 1 照度		2.0	1.00	3.0	1.00	
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.4</b>	0.25	<b>4.5</b>	1.00	<b>4.4</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	<b>5.0</b>	0.63	
4.1.1 1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の積極的な採用	5.0	1.00	5.0	1.00	
<b>4.2 換気</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.38	
4.2.1 1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
4.3.1 1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	建物全体を禁煙化 喫煙室なし	5.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.8</b>	0.40	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	0.60	
1.1.1 1 広さ・収納性		-	-	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	3.0	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>5.0</b>	0.40	<b>4.5</b>	0.40	
1.2.1 1 広さ感・景観		-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画	機能的でありながら、ぬくもりと安らぎの感じられる診療・療養空間づくりとし、患者さんに安全で、安心して利用できる内装計画を目標	5.0	1.00	5.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>		-	-	-	-	
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.3</b>	0.31	-	-	<b>4.3</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>4.8</b>	0.48	-	-	
2.1.1 1 耐震性	建築基準法による規定の1.5倍	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能	座屈拘束ブレースを採用	4.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.7</b>	0.33	-	-	
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外装仕上: 花崗岩(耐用年数60年)	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	内装仕上: ビニルクロス、ビニルシート等(耐用年数20年以上)	5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水・給湯:C、排水・通気:E	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

<b>2.4 信頼性</b>			<b>4.2</b>	-		-	
1	空調・換気設備	取り組み表参照	5.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	取り組み表参照	4.0	0.20		-	
3	電気設備	取り組み表参照	4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法	一般設備機器耐震クラスA	4.0	0.20		-	
5	通信・情報設備	取り組み表参照	4.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.5</b>	0.29	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.31	<b>3.0</b>	0.50	
1	階高のゆとり	低層階の階高:4.8m	5.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	低層階の壁長さ比率:0.128	4.0	0.40	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.31	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.1</b>	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく、修繕できるが、更新できない。	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30		-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 建物の熱負荷抑制</b>		省エネ計算書の値より自動計算	<b>4.0</b>	0.30		-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
2.1	自然エネルギーの直接利用		<b>3.0</b>	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>3 設備システムの高効率化</b>		省エネ計算書の値より自動計算 ERR=11.1	<b>4.0</b>	0.30		-	<b>4.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
4.1	モニタリング		<b>3.0</b>	0.50		-	
4.2	運用管理体制		<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.15		-	<b>3.4</b>
1.1	節水	節水コマ、節水型機器の使用	<b>4.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水再利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.6</b>	0.63		-	<b>3.6</b>
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントB種	4.0	0.20		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生木材	4.0	0.20		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアの採用	4.0	0.24		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.22		-	<b>3.6</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない建材を4種類以上使用	5.0	0.32		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	断熱材		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		省エネ計算書の値より自動計算	<b>3.9</b>	0.33		-	<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.5</b>	0.33		-	<b>2.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	取り組み表参照	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33		-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインチェック表参照	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	